

2023年3月期 第3四半期 決算説明会

2023年2月8日

富士フイルム ホールディングス株式会社

NEVER
STOP

FUJIFILM
Value from Innovation

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日のアジェンダ – 2023年3月期 第3四半期 決算説明会 –

2023年3月期 第3四半期 (2022年4月～12月)

1

決算ハイライト及びトピックス

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2

連結業績及び事業概況

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2023年3月期

3

通期連結業績予想

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

01 2023年3月期 第3四半期
決算ハイライト及びトピックス

2023年3月期 第3四半期 決算ハイライト

2023年3月期 第3四半期 連結業績(9ヶ月)

売上高	営業利益	当社株主帰属 四半期純利益
2兆943億円 対前年 (+12.5%)	過去最高 2,026億円 (+8.7%)	1,537億円 (-2.1%)

9ヶ月累計

- 売上高はメディカルシステム、電子材料、イメージングの伸長や為替影響などにより、増収。
- 営業利益は、部材・エネルギーコストの高騰影響などがある中で、増収に伴う増益により過去最高益を達成。
- 当社株主帰属四半期純利益は、前年に投資有価証券評価益があり減益。

第3四半期(3ヶ月)

- 売上高・営業利益が過去最高を更新。

2023年3月期 通期連結業績予想

売上高	営業利益	当社株主帰属 当期純利益
2兆8,000億円	過去最高 2,600億円	2,000億円

- 通期連結業績予想は、前回予想を据え置き、中期経営計画「VISION2023」の業績目標1年前倒しでの達成、営業利益2年連続の過去最高益更新を目指す。
- 年間配当は13期連続増配となる120円/株を予定。
- 当年度に自己株式の消却を実施。

© FUJIFILM Holdings Corporation 4

第3四半期9ヶ月累計の売上高は2兆943億円、営業利益は過去最高益の2,026億円となりました。

売上高は、メディカルシステムや電子材料、イメージングの販売が好調だったことに加え、為替影響もあり、増収となりました。

営業利益は、部材・エネルギーコストの高騰影響などがある中でも、増収に伴う増益で、過去最高益を達成しました。

当社株主帰属四半期純利益は、前年に出資会社上場による投資有価証券の評価益を計上したことなどにより、やや減益となりました。

第3四半期3ヶ月の業績については、上期に引き続き順調に伸長し、売上高及び営業利益が、第3四半期として過去最高を更新しました。

2023年3月期の通期連結業績予想は、コストインフレーションの進行、欧州の景気後退懸念など経済環境の変化を見据えて、一部事業で着地点の見直しを行いますが、全体での通期業績予想は据え置き、引き続きVISION2023目標の1年前倒し達成、営業利益は、二年連続の過去最高益更新を目指します。

2023年3月期の年間配当は、13期連続増配となる120円を予定します。また、当年度に自己株式の消却を実施することを本日決定しました。

メディカルシステム

米国Inspirata, Inc社のデジタル病理^{*1}部門を買収し、デジタル病理事業に本格参入。メディカルシステム事業の成長をさらに加速し、FY2030の売上高1兆円を目指す。

^{*1} 病理診断：患者の体から採取された組織や細胞を観察し、病変の有無や疾患の種類を診断すること

目的1 | 米国、欧州市場を中心にグローバルでデジタル病理事業を本格展開

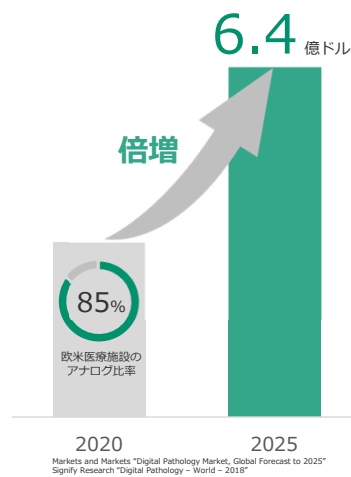
8割以上が未だアナログ画像診断で、急速にデジタル化する過渡期にある病理診断事業に参入、デジタル病理診断用製品をラインアップに加え、販売力を強化し、市場の成長を取り込む。

目的2 | 世界トップシェアを誇る当社の医用画像情報システム(PACS)と組み合わせた院内検査画像の一元化を通じた、当社製品・サービスの競争力強化



^{*2} Signify Research Report

デジタル病理診断用ソフトウェア市場



Markets and Markets "Digital Pathology Market, Global Forecast to 2025"
Signify Research "Digital Pathology - World - 2018"

© FUJIFILM Holdings Corporation 5

次に第3四半期のトピックスをお話します。

まず、メディカルシステム事業で昨年12月に発表した米国Inspirata社のデジタル病理部門買収についてです。

今回の買収の目的は2つあります。

1つ目は、米国、欧州市場を中心にグローバルでデジタル病理事業を本格展開することです。未だ8割以上がアナログの手法が用いられている病理診断は、今後急速にデジタル化する過渡期にあり、デジタル病理診断用ソフトウェアの市場規模は、2025年までに現在のおよそ2倍となる6.4億ドルに達すると予測されています。当社は、デジタル病理診断用製品を製品ラインアップに加え、販売力を強化し、市場の成長を取り込んでいきます。

2つ目は、世界トップシェアを誇る当社の医用画像情報システム(PACS)とデジタル病理診断用ソフトウェアを組み合わせ、院内検査画像の一元化を実現し、病理診断ワークフローの効率化を支援することです。また、当社の優れたAI技術を活用した診断支援機能の提供も検討してまいります。

当社はデジタル病理事業に本格参入することで、メディカルシステム事業の成長をさらに加速させ、2030年度売上高1兆円を目指します。

ライフサイエンス

培地事業の成長加速に向けて、約260億円の設備投資を行い、米国ノースカロライナ州に生産拠点を新設。FY2030に培地の売上高1,000億円を目指す。

目的1 | 年率10%以上で成長を続ける培地市場への対応

グローバル生産能力（対現状）

粉体培地 約 **1.4** 倍 液体培地 約 **2.4** 倍



目的2 | 米国東海岸の顧客への物流リードタイム短縮による顧客満足度の向上、自然災害など有事に備えた生産体制の構築

・平均輸送距離

約 **1,000** mile の短縮

・平均輸送日数

東海岸顧客向け 最大 **4** 日 の短縮

- ・ 輸送コスト低減
- ・ 管理コスト低減
在庫、倉庫代等
- ・ 環境負荷低減



© FUJIFILM Holdings Corporation 6

次に、ライフサイエンス事業で昨年11月に発表した培地の生産拠点新設についてです。

当社は、細胞培養に必要な培地の事業成長加速に向けて、約260億円の設備投資を行い、米国カリフォルニア州に続き、米国2ヶ所目となるノースカロライナ州に生産拠点を新設することを決定しました。

新生産拠点設立の目的は2つあります。

1つ目は、バイオ医薬品の需要の増加や、細胞治療・遺伝子治療といった先端医療の発展に伴い、年率10%以上で成長を続ける培地市場への対応です。

2つ目は、バイオテック企業やアカデミアが集積する米国東海岸地域のノースカロライナ州に生産拠点を新設することで、受注から納品までのリードタイムを短縮し、顧客サポート力を強化するとともに、輸送コスト及び環境負荷を低減し、さらに自然災害などの有事へのリスク低減も図ります。

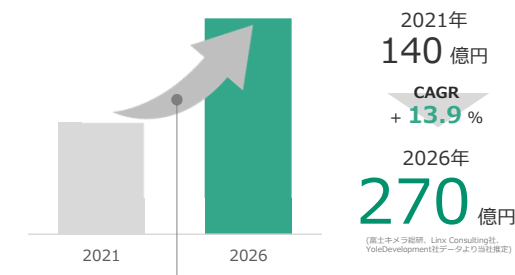
当社は、グループのリソースを活用し、高品質・高機能な培地を開発・提供することで、グローバル展開を加速させ、FY2030に培地の売上高1,000億円を目指します。

電子材料

イメージセンサー用カラーフィルター材料*を生産する工場を韓国に新設。
 事業拡大に向けた成長投資により、ワンストップソリューションを提供する半導体材料メーカーへと進化し、
 FY2026に2,500億円、FY2030に4,000億円の売上高を目指す。

* イメージセンサーに用いるカラーフィルターを製造するために必要な着色感光材料製品で、現在「Wave Control Mosaic (WCM)」として展開している。

イメージセンサー用カラーフィルター材料市場



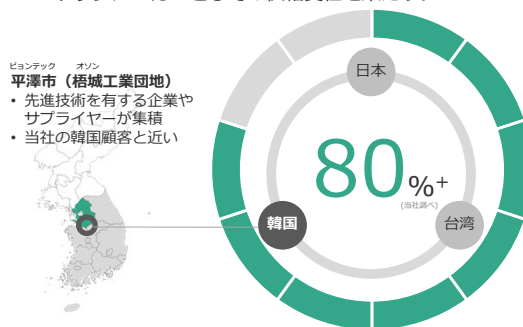
- モバイル領域
- 車載
- ファクトリーオートメーション(FA)
- 監視(セキュリティ)
- IoT

当社シェア及び製造拠点

WCM (Wave Control Mosaic)

高い品質基準を求められる当製品を安定的に生産・提供し、
 トップメーカーとしての供給責任を果たす。

ピョンテック オンソ
 平澤市 (梧城工業団地)
 ・ 先進技術を有する企業や
 サプライヤーが集積
 ・ 当社の韓国顧客と近い



© FUJIFILM Holdings Corporation 7

最後に、電子材料事業で12月に発表しました、イメージセンサー用カラーフィルター材料を生産する工場の韓国への新設についてです。

近年、自動車やセキュリティ機器などへの用途拡大が進んでいるイメージセンサーに用いるカラーフィルター材料市場は、年率約14%で成長することが見込まれています。

当社は、イメージセンサー用カラーフィルター材料で80%以上の世界シェアを有するトップメーカーとしての供給責任を果たすべく、日本・台湾・韓国3拠点のグローバル生産体制を確立し、高品質が求められる同製品を安定的に生産・提供していきます。

当社の電子材料事業は、事業拡大に向けた成長投資によって、ワンストップソリューションを提供する半導体材料メーカーへと進化し、2026年度2,500億円、2030年度には、4,000億円の売上高を目指します。

02 2023年3月期 第3四半期
連結業績及び事業概況

2023年3月期 第3四半期 業績 (2022年4月～12月)

(単位：億円)

	9ヶ月				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	18,609 100.0%	20,943 100.0%	2,334 +12.5%	1,830	504 +2.7%
営業利益	1,865 10.0%	2,026 9.7%	161 +8.7%	362	-201 -10.7%
税金等調整前四半期純利益	2,072 11.1%	2,048 9.8%	-24 -1.2%	325	-349 -16.8%
当社株主帰属四半期純利益	1,571 8.4%	1,537 7.3%	-34 -2.1%	225	-259 -16.5%
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	392.40円	383.43円	-8.97円	<その他増減要因（対前年度）> 営業利益における 原材料価格影響： -151億円 （半導体等の部材価格は含まず）	
為替 ：米ドル	111円	137円	26円安		
：ユーロ	131円	141円	10円安		

© FUJIFILM Holdings Corporation 9

2023年3月期 第3四半期の業績は、

売上高は、メディカルシステムや電子材料、イメージングの販売好調や、為替影響などにより、前年比12.5%増の2兆943億円、

営業利益は、ヘルスケアで前年度のコロナ関連特需の減少や、部材・エネルギーコストの上昇などの影響がある中でも、増収に伴う増益と為替影響などで前年比8.7%増の2,026億円となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、前年度に出資会社上場による投資有価証券の評価益計上などがあり、前年比2.1%減の1,537億円となりました。

2023年3月期 第3四半期(2022年4月～12月)

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位: 億円)

売上高	9ヶ月		対前年度	為替影響除く	
	2022年 3月期	2023年 3月期			
ヘルスケア	5,767	6,338	571 +9.9%	-73	-1.3%
マテリアルズ	4,673	5,227	554 +11.8%	45	+0.9%
ビジネスイノベーション	5,567	6,141	574 +10.3%	268	+4.8%
イメージング	2,602	3,237	635 +24.4%	264	+10.2%
合計	18,609	20,943	2,334 +12.5%	504	+2.7%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	9ヶ月		対前年度	為替影響除く	
	2022年 3月期	2023年 3月期			
ヘルスケア	753	606	-147 -19.5%	-307	-40.8%
マテリアルズ	582	595	13 +2.3%	-150	-25.7%
ビジネスイノベーション	419	478	59 +14.2%	146	+35.0%
イメージング	347	627	280 +80.8%	149	+42.9%
全社/連結調整	-236	-280	-44 -	-39	-
合計	1,865	2,026	161 +8.7%	-201	-10.7%

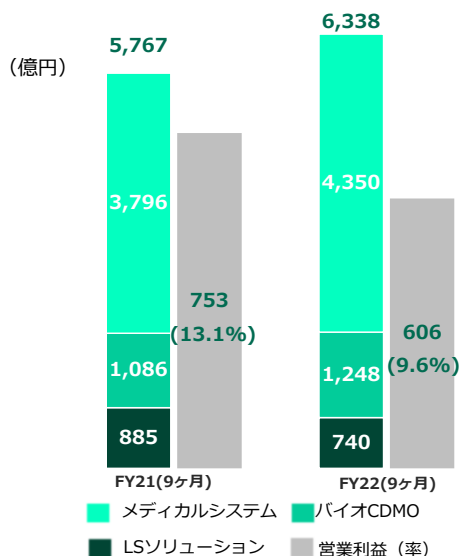
※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 10

セグメント別の売上・利益はご覧の通りです。

セグメント別概況：ヘルスケア

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は対前年+9.9%、前年のコロナ関連需要の一巡により、営業利益は対前年-19.5%となり、増収・減益で着地。



メディカルシステム 売上高 4,350億円 (対前年+14.6%)

- ・ 内視鏡、医療IT、CT・MRIなどの販売が好調に推移し、増収。
- ・ 医療ITでは、医用画像情報システム (PACS) 「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が好調。

バイオCDMO 売上高 1,248億円 (対前年+14.9%)

- ・ バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移したことや、為替影響などにより、増収。

LSソリューション 売上高 740億円 (対前年-16.4%)

- ・ ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用培地でコロナ関連特需が一巡した影響を、試薬・細胞が伸長したことなどでカバーし、増収。
- ・ 医薬品は、2022年3月に完了した放射性医薬品事業の譲渡により、減収。

※LSソリューション：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は、前年比9.9%増の6,338億円、営業利益は、バイオCDMOにおいて、前年度にワクチン製造に関わる助成金収入があったことや、LSソリューションの減収などにより、前年比19.5%減の606億円となりました。

メディカルシステムは、内視鏡、医療IT、CT・MRIなどの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

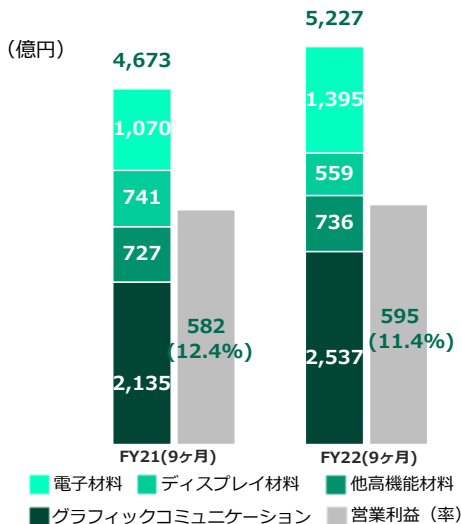
医療ITでは、医用画像情報システム (PACS) 「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が好調。日本、米国では、CTと「SYNAPSE VINCENT」とのバンドル販売が本格的に始まっています。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移したことや、為替影響などにより、増収となりました。

LSソリューションは、ライフサイエンスで、バイオ医薬品製造用培地のコロナ関連特需が一巡した影響を、試薬・細胞が伸長したことでカバーしましたが、医薬品で2022年3月に完了した放射性医薬品事業売却による減収が影響し、減収となりました。

セグメント別概況：マテリアルズ

先端半導体需要の増加に伴う電子材料の伸長と、グラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高対前年+11.8%、営業利益対前年+2.3%と増収・増益で着地。



電子材料 売上高 1,395億円 (対前年+30.4%)

- 先端半導体需要の増加に伴い、CMPスラリーやポリイミドなどの製品群で販売が好調に推移し、増収。

ディスプレイ材料 売上高 559億円 (対前年-24.5%)

- 前年にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット及びTV需要が増加したことの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、減収。

他高機能材料 売上高 736億円 (対前年+1.3%)

- 産業機材で、オイルガス業界向けの非破壊検査機器・材料の販売が好調に推移し、増収。

グラフィックコミュニケーション 売上高 2,537億円 (対前年+18.8%)

- グラフィックコミュニケーションでは、刷版材料分野で販売価格の見直しを実施したことに加え、デジタル印刷分野で、欧州・中東などでプロダクションプリンターの販路を拡大していることなどにより、増収。
- インクジェットでは、産業用インクジェットヘッドの販売が、主に欧州の建材印刷市場での需要増により伸長したことなどにより、増収。

※ 他高機能材料：産業機材事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスインノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 12

マテリアルズの業績の概要を説明します。

先端半導体を中心とした需要の増加に伴う電子材料の伸長と、グラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高は、前年比11.8%増の5,227億円、営業利益は、前年比2.3%増の595億円となりました。

電子材料は、CMPスラリーやポリイミドなどの製品の販売が好調に推移し、売上が増加しました。

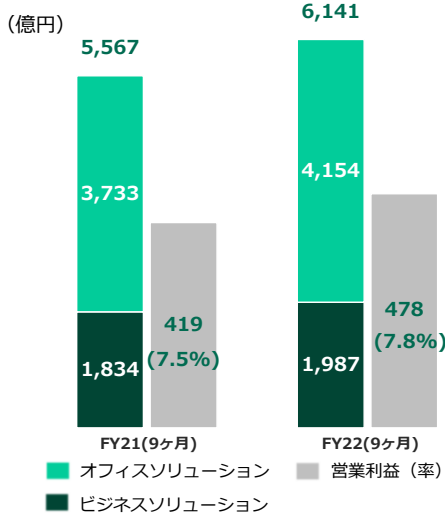
ディスプレイ材料は、前年度にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット、TV需要が増加したことの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、売上が減少しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料分野において原材料価格の高騰に伴い販売価格を見直し、また、デジタル印刷分野が、プロダクションプリンターの販路拡大などにより伸長し、売上が増加しました。

インクジェットは、産業用インクジェットヘッドの販売が、主に欧州の建材印刷市場での需要増により伸長したことなどにより、売上が増加しました。

セグメント別概況：ビジネスイノベーション

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は対前年+10.3%、営業利益は対前年+14.2%と増収・増益で着地。



■ オフィスソリューション 売上高 4,154億円 (対前年+11.3%)

- 第3四半期を通して製品供給が上期からさらに回復し、欧米向け輸出の好調継続に加え、国内売上が伸長。2022年12月には、新市場のインドで販売を開始。
- 2022年10月に、多種多様な用紙出力に対応し、セキュリティをさらに強化したA3カラープリンターのフラッグシップモデル「ApeosPrint C5570/C4570」を発売。

■ ビジネスソリューション 売上高1,987 億円 (対前年+8.3%)

- 国内で、中堅・中小企業のDX課題解決を支援するソリューション「Bridge DX Library」※をはじめとするソリューション・サービスの販売が増加したことに加え、海外でのBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）事業の売上が増加。
- 「Bridge DX Library」の拡販をさらに進めるとともに、自治体向けDX支援を加速。2022年11月には、法人から自治体へ住民票の写しを請求する業務のデジタル化に向けて、10自治体・7法人が参加する検討ワーキンググループを発足。

※ 建設業や製造業などの4業種及び業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティ強化等の業務課題ソリューション。2023年2月時点で、103種類のラインアップで展開。当社が蓄積してきた課題解決の成功事例と豊富なソリューション・サービスを組み合わせた提案を強みとし、お客様のDX推進を支援。

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業等の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

ビジネスイノベーションの業績の概要を説明します。

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は、前年比10.3%増の6,141億円、営業利益は、前年比14.2%増の478億円となりました。

オフィスソリューションは、第3四半期を通して製品供給が上期からさらに回復し、欧米向け輸出の好調が継続したことに加え、国内の売上が伸長しました。また、2022年12月には、新市場のインドで販売を開始しました。

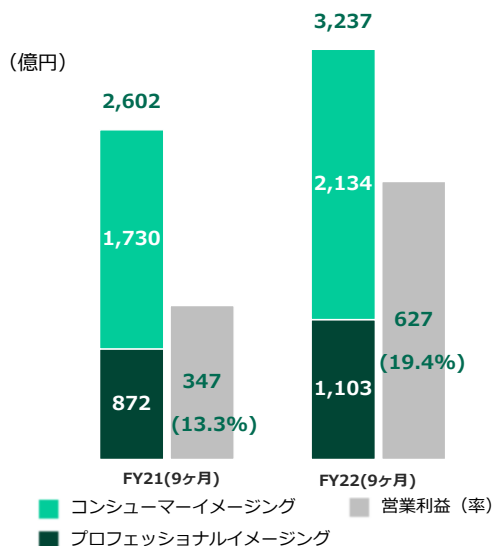
2022年10月には、多種多様な用紙出力に対応し、セキュリティをさらに強化したA3カラープリンターのフラッグシップモデル「ApeosPrint C5570/C4570」を発売しました。

ビジネスソリューションは、国内で、中堅・中小企業のDX課題解決を支援するソリューション「Bridge DX Library」をはじめとするソリューション・サービスの販売が増加したことに加え、海外でのBPO事業の売上が増加しました。今後も「Bridge DX Library」の拡販をさらに進めるとともに、自治体向けDX支援も加速していきます。

2022年11月には、法人から自治体へ住民票の写しを請求する業務のデジタル化に向けて、10自治体・7法人が参加する検討ワーキンググループを発足しました。

セグメント別概況：イメージング

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高対前年+24.4%、営業利益対前年+80.8%と増収・増益で着地。



コンシューマーイメージング 売上高 2,134億円 (対前年+23.4%)

- ・ インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、増収。
- ・ 2022年11月に、スマホプリンター“チェキ”「INSTAX SQUARE Link (スクエアリンク)」を発売。AR (拡張現実) エフェクトでチェキプリントを個性的に彩る「AR Print」や、メッセージ付きチェキプリントが楽しめる「INSTAX Connect」などの新たな機能を搭載し、市場から高い評価を獲得。

プロフェッショナルイメージング 売上高 1,103億円 (対前年+26.5%)

- ・ デジタルカメラは、10周年を迎えた「Xシリーズ」で、2022年7月に発売の「X-H2S」、9月に発売の「X-H2」などの販売が好調に推移し、増収。
- ・ 2022年11月には、Xシリーズの原点「小型・軽量・高画質」に拘り、写真を最優先に設計した「X-T5」を発売。

イメージングの業績の概要を説明します。

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は、前年比24.4%増の3,237億円、営業利益は、前年比80.8%増の627億円となりました。

コンシューマーイメージングでは、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調で、売上が増加しました。

インスタントフォトシステムは、2022年11月にスマホプリンター“チェキ”

「INSTAX SQUARE Link (スクエアリンク)」を発売しました。

ARエフェクトでチェキプリントを個性的に彩る「AR Print」や、メッセージ付きチェキプリントが楽しめる「INSTAX Connect」などの新たな機能を搭載し、市場から高い評価を受けています。

プロフェッショナルイメージングでは、10周年を迎えた「Xシリーズ」で、2022年7月に発売の「X-H2S」、同年9月に発売の「X-H2」、また、2022年11月に発売のXシリーズの原点である「小型・軽量・高画質」にこだわり、写真を最優先に設計した「X-T5」の販売が好調で、増収となりました。

連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 12月末	対22年 3月期末		21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 12月末	対22年 3月期末
現金及び現金同等物	3,948	4,863	3,178	-1,685	長短社債及び借入金	5,030	4,472	4,773	301
受取債権	6,057	5,986	6,561	575	支払債務	2,399	3,032	3,127	95
棚卸資産	4,177	5,045	6,210	1,165	その他流動・固定負債	5,841	6,800	6,396	-404
その他流動資産	892	1,353	1,615	262	負債計	13,270	14,304	14,296	-8
流動資産計	15,074	17,247	17,564	317	株主資本計	22,046	25,027	26,948	1,921
有形固定資産	6,353	7,368	8,875	1,507	非支配持分	176	222	241	19
営業権	8,042	8,240	8,430	190	純資産計	22,222	25,249	27,189	1,940
その他固定資産	6,023	6,698	6,616	-82	負債・純資産合計	35,492	39,553	41,485	1,932
固定資産計	20,418	22,306	23,921	1,615	(単位：円)				
資産合計	35,492	39,553	41,485	1,932	期末日 為替レート	21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 12月末	対22年 3月期末
					米ドル	111	122	133	11円安
					ユーロ	130	137	141	4円安

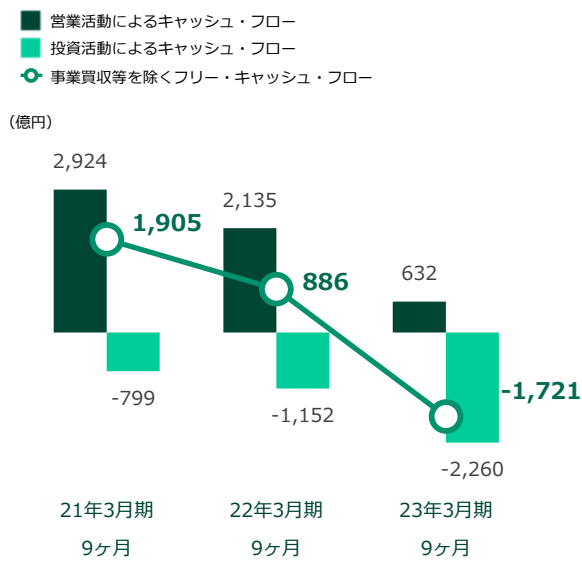
バランスシートについて説明します。

2023年3月期12月末時点の資産合計は、棚卸資産の増加などにより、2022年3月期末時点と比べ、1,932億円増の4兆1,485億円となりました。

負債は、8億円減の1兆4,296億円となりました。

株主資本は1,921億円増の2兆6,948億円となりました。

連結キャッシュ・フロー



(単位：億円)

	21年3月期 9ヶ月	22年3月期 9ヶ月	23年3月期 9ヶ月
当期純利益	1,278	1,604	1,549
減価償却費	909	977	1,067
受取債権の増(-)減(+)	372	354	-468
棚卸資産の増(-)減(+)	-299	-661	-1,083
営業債務の増(+)-減(-)	-104	79	95
その他	768	-218	-528
営業活動によるCF	2,924	2,135	632
設備投資	-729	-909	-1,910
ソフトウェアの購入	-154	-270	-356
投資有価証券の売却・購入等	220	97	247
事業買収	0	0	-154
その他	-136	-70	-87
投資活動によるCF	-799	-1,152	-2,260
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	2,125	983	-1,628
事業買収等を除くFCF※	1,905	886	-1,721

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 16

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、部材の需給逼迫に備えるために一時的に在庫を積み増していることなどにより、632億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、バイオCDMOを中心とする設備投資などにより、2,260億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,721億円の支出となりました。

2023年3月期第3四半期決算の説明は以上です。

03 2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 通期連結業績予想 (2023年2月8日時点)

(単位: 億円)

	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/11/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2023/2/8公表値)	対前年度	対前回予想
売上高	25,258 100%	28,000 100%	28,000 100%	2,742 +10.9%	-
営業利益	2,297 9.1%	2,600 9.3%	2,600 9.3%	303 +13.2%	-
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	2,700 9.6%	2,700 9.6%	96 +3.7%	-
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	2,000 7.1%	2,000 7.1%	-112 -5.3%	-
(※1) 1株当たり当社株主帰属当期純利益	527.33円	498.64円	498.64円	-28.69円	-
ROE	9.0%	7.6%	7.6%	-1.4%	-
ROIC	5.6%	5.7%	5.7%	+0.1%	-
CCC	122日	114日	114日	-8日	-
為替 : 米ドル (※2)	113円	135円	135円	22円安	-
: ユーロ	131円	136円	141円	10円安	5円安
銀価格 (/kg)	89,000円	94,000円	96,000円	+7,000円	+2,000円

※1 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2022年12月31日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※2 第4四半期為替レート前提 米ドル: 130円 ユーロ: 142円

© FUJIFILM Holdings Corporation 18

2023年3月期の通期連結業績予想は、冒頭に後藤からお伝えしました通り、全体では、前回予想を据え置き、売上高2兆8,000億円、営業利益は2,600億円、当社株主帰属当期純利益は、2,000億円としています。

セグメント別業績予想 (2023年2月8日時点)

(単位: 億円)

売上高	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/11/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2023/2/8公表値)	対前回予想	内、為替影響
ヘルスケア	8,017	8,900	8,800	-100	10
マテリアルズ	6,307	7,050	6,900	-150	5
ビジネスイノベーション	7,600	8,150	8,250	100	-15
イメージング	3,334	3,900	4,050	150	10
合計	25,258	28,000	28,000	-	10

(単位: 億円)

営業利益	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/11/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2023/2/8公表値)	対前回予想	内、為替影響
ヘルスケア	1,005	1,150	1,080	-70	-5
マテリアルズ	684	720	630	-90	-
ビジネスイノベーション	579	630	630	-	-5
イメージング	370	520	650	130	-
全社/連結調整	-341	-420	-390	30	-
合計	2,297	2,600	2,600	-	-10

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

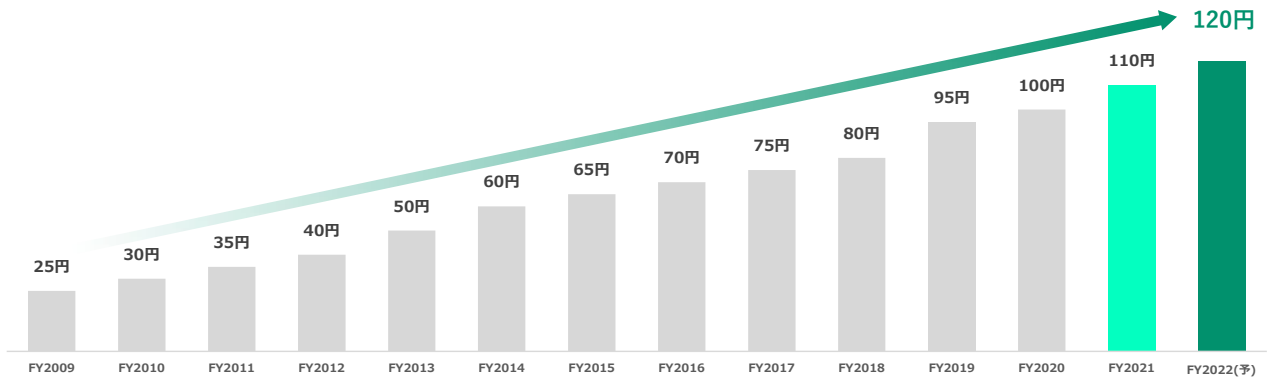
第3四半期の実績、足元の事業の状況や、今後の市場環境をみて、各セグメントそれぞれで売上高、営業利益を修正します。

売上高のサブセグメント別の修正については、説明資料の29ページを、また、営業利益のセグメント別の修正については、30ページをご参照下さい。

株主還元

配当金

- 2023年3月期の年間配当は、13期連続増配となる120円/株を予定



自己株式

- 当年度に自己株式(消却前発行済株式総数の19.4%にあたる1億株)の消却を実施。
- 取得については、キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施。

© FUJIFILM Holdings Corporation 20

年間配当は、13期連続増配となる120円を予定しています。

また、冒頭に後藤からお伝えしました通り、消却前発行済株式総数の19.4%にあたる1億株の自己株式を当年度に消却することを決定しました。

04 2023年3月期 第3四半期
参考資料

3Q | 9ヶ月 業績

(単位：億円)

	3Q					9ヶ月				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	6,558 100.0%	過去 最高 7,444 100.0%	886 +13.5%	693	193 +2.9%	18,609 100.0%	過去 最高 20,943 100.0%	2,334 +12.5%	1,830	504 +2.7%
営業利益	786 12.0%	過去 最高 818 11.0%	32 +4.1%	134	-102 -13.0%	1,865 10.0%	過去 最高 2,026 9.7%	161 +8.7%	362	-201 -10.7%
税金等調整前四半期純利益	773 11.8%	753 10.1%	-20 -2.7%	45	-65 -8.5%	2,072 11.1%	2,048 9.8%	-24 -1.2%	325	-349 -16.8%
当社株主帰属四半期純利益	608 9.3%	585 7.9%	-23 -3.7%	31	-54 -8.9%	1,571 8.4%	1,537 7.3%	-34 -2.1%	225	-259 -16.5%
為替										
: 米ドル	114円	141円	27円安			111円	137円	26円安		
: ユーロ	130円	144円	14円安			131円	141円	10円安		

<その他増減要因 (3Q/9ヶ月 対前年度)>

営業利益における原材料価格影響： -34億円/-151億円

3Q | 9ヶ月 業績 : セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位: 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	2,011	2,177	166	+8.2%	-68	-3.4%	5,767	6,338	571	+9.9%	-73	-1.3%
マテリアルズ	1,595	1,707	112	+7.0%	-66	-4.1%	4,673	5,227	554	+11.8%	45	+0.9%
ビジネスイノベーション	1,833	2,157	324	+17.7%	210	+11.4%	5,567	6,141	574	+10.3%	268	+4.8%
イメージング	1,119	1,403	284	+25.5%	117	+10.5%	2,602	3,237	635	+24.4%	264	+10.2%
合計	6,558	7,444	886	+13.5%	193	+2.9%	18,609	20,943	2,334	+12.5%	504	+2.7%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 【営業利益率】	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	283 [14.1%]	170 [7.8%]	-113	-39.7%	-160	-56.3%	753 [13.1%]	606 [9.6%]	-147	-19.5%	-307	-40.8%
マテリアルズ	192 [12.0%]	201 [11.8%]	9	+5.2%	-54	-27.4%	582 [12.4%]	595 [11.4%]	13	+2.3%	-150	-25.7%
ビジネスイノベーション	162 [8.9%]	177 [8.2%]	15	+9.0%	50	+30.8%	419 [7.5%]	478 [7.8%]	59	+14.2%	146	+35.0%
イメージング	223 [19.9%]	361 [25.7%]	138	+61.9%	76	+33.8%	347 [13.3%]	627 [19.4%]	280	+80.8%	149	+42.9%
全社/連結調整	-74	-91	-17	-	-14	-	-236	-280	-44	-	-39	-
合計	786 [12.0%]	818 [11.0%]	32	+4.1%	-102	-13.0%	1,865 [10.0%]	2,026 [9.7%]	161	+8.7%	-201	-10.7%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

参考資料

3Q | 9ヶ月 業績 : ヘルスケア

(単位 : 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
メディカルシステム	1,348	1,524	176	+13.1%	32	+2.4%	3,796	4,350	554	+14.6%	170	+4.5%
バイオCDMO	374	395	21	+5.2%	-48	-13.3%	1,086	1,248	162	+14.9%	-45	-4.2%
LSソリューション	289	258	-31	-10.9%	-52	-17.9%	885	740	-145	-16.4%	-198	-22.4%
合計	2,011	2,177	166	+8.2%	-68	-3.4%	5,767	6,338	571	+9.9%	-73	-1.3%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
ヘルスケア	283 [14.1%]	170 [7.8%]	-113	-39.7%	-160	-56.3%	753 [13.1%]	606 [9.6%]	-147	-19.5%	-307	-40.8%

© FUJIFILM Holdings Corporation 24

参考資料

3Q | 9ヶ月 業績 : マテリアルズ

(単位 : 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
電子材料	377	464	87	+23.1%	13	+3.7%	1,070	1,395	325	+30.4%	115	+10.8%
ディスプレイ材料	237	170	-67	-28.3%	-67	-28.2%	741	559	-182	-24.5%	-182	-24.5%
他高機能材料	245	233	-12	-5.0%	-35	-14.4%	727	736	9	+1.3%	-63	-8.7%
グラフィックコミュニケーション	736	840	104	+14.1%	23	+3.1%	2,135	2,537	402	+18.8%	175	+8.1%
合計	1,595	1,707	112	+7.0%	-66	-4.1%	4,673	5,227	554	+11.8%	45	+0.9%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
マテリアルズ	192 [12.0%]	201 [11.8%]	9	+5.2%	-54	-27.4%	582 [12.4%]	595 [11.4%]	13	+2.3%	-150	-25.7%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

参考資料

3Q | 9ヶ月 業績 : ビジネスイノベーション

(単位 : 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
オフィスソリューション	1,217	1,485	268	+22.1%	179	+14.7%	3,733	4,154	421	+11.3%	193	+5.2%
ビジネスソリューション	616	672	56	+9.0%	31	+5.0%	1,834	1,987	153	+8.3%	75	+4.1%
合計	1,833	2,157	324	+17.7%	210	+11.4%	5,567	6,141	574	+10.3%	268	+4.8%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ビジネスイノベーション	162 [8.9%]	177 [8.2%]	15	+9.0%	50	+30.8%	419 [7.5%]	478 [7.8%]	59	+14.2%	146	+35.0%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業等の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

参考資料

3Q | 9ヶ月 業績 : イメージング

(単位 : 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
コンシューマーイメージング	790	943	153	+19.6%	30	+4.0%	1,730	2,134	404	+23.4%	133	+7.8%
プロフェッショナルイメージング	329	460	131	+39.6%	87	+26.3%	872	1,103	231	+26.5%	131	+15.0%
合計	1,119	1,403	284	+25.5%	117	+10.5%	2,602	3,237	635	+24.4%	264	+10.2%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
イメージング	223 [19.9%]	361 [25.7%]	138	+61.9%	76	+33.8%	347 [13.3%]	627 [19.4%]	280	+80.8%	149	+42.9%

営業利益増減分析(9ヶ月累計実績 対前年)

(単位：億円)

	9ヶ月累計								
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替	原材料価格	一時費用	中国 ロックダウン	オペレー ション等 ^{※1}
ヘルスケア	753	606	-147	-19.5%	160	-14	-31	-11	-251
マテリアルズ	582	595	13	+2.3%	163	-121	52	-6	-75
※5 ビジネスイノベーション	419	478	59	+14.2%	-87	-	26	-8	128
イメージング	347	627	280	+80.8%	131	-16	27	-15	153
全社/連結調整	-236	-280	-44	-	-5	-	-	-	-39
合計	1,865	2,026	161	+8.7%	※2 362	※3 -151	※4 74	-40	-84

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2：為替レート

	2022年 3月期	2023年 3月期
米ドル	111円	137円
ユーロ	131円	141円

※3：原材料別(半導体影響は除く)

	3Q累計
銀	-5
アルミ	-58
他(燃料等)	-88
合計	-151

※4：一時費用明細

(単位：億円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
ヘルスケア	31	62	-31
新規買収会社(CDMO)	-	55	-55
新規買収会社(メディカル)	31	-	31
その他	-	7	-7
マテリアルズ	43	-9	52
グラフィック等	43	-9	52
ビジネスイノベーション	99	73	26
体質強化費用	33	49	-16
新ブランド移行費用	66	24	42
イメージング	22	-5	27
体質強化費用等	22	-5	27
全社	-	-	-
合計	195	121	74

※5 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

2023年3月期 通期連結業績予想 (2023年2月8日時点)

事業別売上高

(単位:億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 前回予想(11/10)	2023年3月期 今回予想(2/8)	対前年度		対前回予想	
ヘルスケア	8,017	8,900	8,800	783	+9.8%	-100	-1.1%
メディカルシステム	5,338	6,050	6,050	712	+13.3%	-	-
バイオCDMO	1,503	1,750	1,750	247	+16.4%	-	-
LSソリューション	1,176	1,100	1,000	-176	-15.0%	-100	-9.1%
マテリアルズ	6,307	7,050	6,900	593	+9.4%	-150	-2.1%
電子材料	1,467	1,900	1,800	333	+22.7%	-100	-5.3%
ディスプレイ材料	947	700	700	-247	-26.1%	-	-
他高機能材料	964	1,000	980	16	+1.7%	-20	-2.0%
グラフィックコミュニケーション	2,929	3,450	3,420	491	+16.8%	-30	-0.9%
ビジネスイノベーション	7,600	8,150	8,250	650	+8.6%	100	+1.2%
オフィスソリューション	4,995	5,300	5,350	355	+7.1%	50	+0.9%
ビジネスソリューション	2,605	2,850	2,900	295	+11.3%	50	+1.8%
イメージング	3,334	3,900	4,050	716	+21.5%	150	+3.8%
コンシューマーイメージング	2,190	2,600	2,650	460	+21.0%	50	+1.9%
プロフェッショナルイメージング	1,144	1,300	1,400	256	+22.4%	100	+7.7%
合計	25,258	28,000	28,000	2,742	+10.9%	-	-
為替							
米ドル	113円	135円	135円	22円安		-	
ユーロ	131円	136円	141円	10円安		5円安	

※印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業等の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

営業利益増減分析(通期業績予想 対前回予想)

(単位: 億円)

	2023年3月期(通期)							
	前回予想 (2022/11/10)	今回予想 (2023/2/8)	対前回予想		為替	原材料価格	一時費用	オペレーション等 ^{※1}
ヘルスケア	1,150	1,080	-70	-6.1%	-5	-3	6	-68
マテリアルズ	720	630	-90	-12.5%	-	3	14	-107
ビジネスイノベーション	630	630	-	-	-5	-	-	5
イメージング	520	650	130	+25.0%	-	-1	9	122
全社/連結調整	-420	-390	30	-	-	-	5	25
合計	2,600	2,600	-	-	※2 -10	※3 -1	※4 34	-23

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2: 為替レート

	前回予想 (2022/11/10)	今回予想 (2023/2/8)
米ドル	135円	135円
ユーロ	136円	141円

※3: 原材料別(半導体影響は除く)

	今回予想
銀	-4
アルミ	9
他(燃料等)	-6
合計	-1

※4: 一時費用明細

(単位: 億円)

	前回予想 (2022/11/10)	今回予想 (2023/2/8)	差異
ヘルスケア	70	64	6
新規興収会社(CDMO)	52	48	4
その他	18	16	2
マテリアルズ	20	6	14
グラフィック等	20	6	14
ビジネスイノベーション	125	125	-
体質強化費用	90	90	-
新ブランド移行費用	35	35	-
イメージング	15	6	9
体質強化費用等	15	6	9
全社	5	-	5
合計	235	201	34

© FUJIFILM Holdings Corporation 30

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

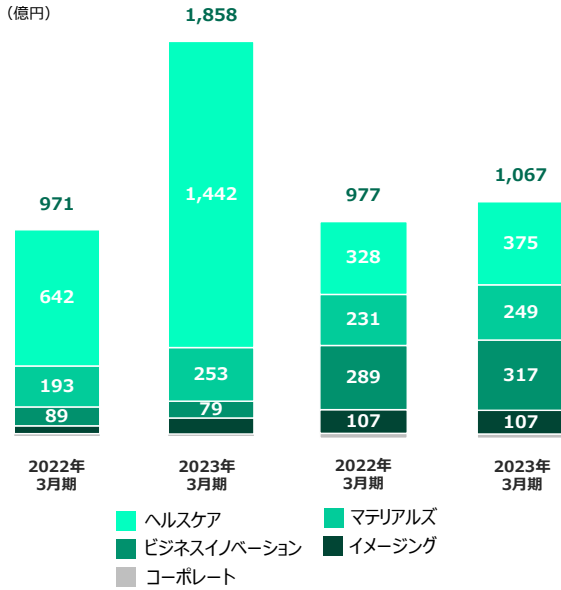
	2022年3月期 9ヶ月		2023年3月期 9ヶ月		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	38.2%	7,104	34.5%	7,228	124	+1.7%
米州	21.2%	3,949	23.3%	4,881	932	+23.6%
欧州	13.3%	2,482	15.2%	3,180	698	+28.1%
内、中国	13.9%	2,584	13.6%	2,839	255	+9.9%
アジア他	27.3%	5,074	27.0%	5,654	580	+11.4%
海外	61.8%	11,505	65.5%	13,715	2,210	+19.2%
合計	100.0%	18,609	100.0%	20,943	2,334	+12.5%

設備投資 | 減価償却費

設備投資（有形固定資産）
9ヶ月累計

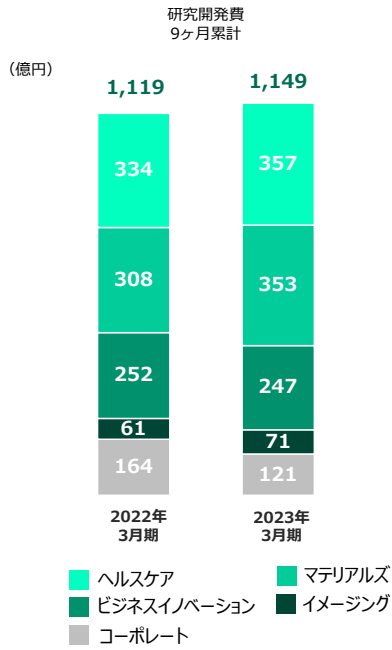
減価償却費
9ヶ月累計

(単位：億円)



年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	237	564	642	1,442	1,039	2,300
マテリアルズ	74	100	193	253	317	650
ビジネスイノベーション	31	26	89	79	121	110
イメージング	10	31	37	75	55	110
コーポレート	4	4	10	9	20	30
設備投資（有形固定資産）	356	725	971	1,858	1,552	3,200
ヘルスケア	19	32	74	93	113	150
マテリアルズ	15	10	43	49	68	50
ビジネスイノベーション	70	49	195	355	314	400
イメージング	8	6	37	31	54	50
コーポレート	1	10	18	26	39	50
設備投資（ソフト、レンタル資産他）	113	107	367	554	588	700
ヘルスケア	110	127	328	375	445	540
マテリアルズ	79	81	231	249	324	350
ビジネスイノベーション	96	109	289	317	390	440
イメージング	35	36	107	107	141	150
コーポレート	7	6	22	19	30	20
減価償却費	327	359	977	1,067	1,330	1,500

研究開発費 | 販売費及び一般管理費



(単位：億円)

年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	107	126	334	357	453	-
マテリアルズ	103	116	308	353	399	-
ビジネスイノベーション	79	79	252	247	332	-
イメージング	20	23	61	71	85	-
コーポレート	52	40	164	121	236	-
研究開発費	361	384	1,119	1,149	1,505	1,600
<売上高比>	5.5%	5.2%	6.0%	5.5%	6.0%	5.7%
販売費及び一般管理費	1,634	1,809	4,861	5,243	6,530	-
<売上高比>	24.9%	24.2%	26.2%	25.0%	25.8%	-

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2022年3月期						2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
米ドル	109	111	114	111	116	113	130	139	141	137	135
ユーロ	132	130	130	131	130	131	138	139	144	141	141

為替感応度 1円の変動による影響 (年間)

	売上高	営業利益
米ドル (1円あたり)	50億円	3億円
ユーロ (1円あたり)	15億円	8億円

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2022年3月期						2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
銀	93	86	86	89	88	89	95	86	94	92	96

人員

(単位：人)

	2021.9末	2021.12末	2022.3末	2022.6末	2022.9末	2022.12末
連結	75,007	74,842	75,474	75,341	75,090	74,491

パイプライン (2023年2月8日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	日本	Ph III
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
	欧州		Ph II	
	日本		Ph II	
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I

※ FF-10501 : 開発中止のため、パイプライン表より削除。

参考情報

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2022**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルム事業概要**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/business-overview.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>
- **新型コロナウイルス感染症への取り組み**
<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フイルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>